

0.2mmの丸い先端。

.06テーパのLAアクセスダイヤモンドバー。



バーの先端にはダイヤモンドが付いておらず、また先端は丸い形状になっています。
より安全かつ短時間に根管拡大の前処理が可能となります。

- ◎人工根管、レッジを作る恐れを軽減します。
- ◎髓床底にあたったまま回転することがあっても、歯質を傷つける恐れが少ない設計です。
- ◎根管口部に達すると、無理なくバーを挿入することができます。

先端形状は#20（先端径0.2mm）06テーパなので、
根管拡大「K3ファイル」の使用に適した根管口の形成が可能です。

- ◎エンド三角の除去もでき、根管治療時の作業が大幅に軽減されます。
- ◎K3ファイルにかかるストレスを軽減できます。

New



LA ACCESS 歯科用ダイヤモンドバー
LAアクセス 2.0キット

[815-1404]

- ① LA アクセス ダイヤモンドバー：根管口明示・エンド三角の除去 ② #2 ラウンド ダイヤモンドバー：ポーセレンの切削 ③ クロスカット カーバイトバー：金属、ポーセレンの切削
- ④ #2 ラウンド カーバイトバー：髓室開口 ⑤ #4 ラウンド カーバイトバー：髓室開口 ⑥ #6 ラウンド カーバイトバー：髓室開口
- ◎ 歯科用ダイヤモンドバー [LA アクセス 2.0 キット] ◎ 標準価格：15,500 円 [①～⑥各2本入・バースタンド] ◎ 届出番号：13B1X00014002001

●お問合せは下記まで

株式会社ヨシダはISO9001とISO13485を取得しています。
詳しくはヨシダホームページをご覧ください。http://www.yoshida-dental.co.jp



LAアクセスバーの活用法

[術式]

寺内 吉継

神奈川県大和市開業

医療法人社団インテリデント CT&米国式根管治療センター

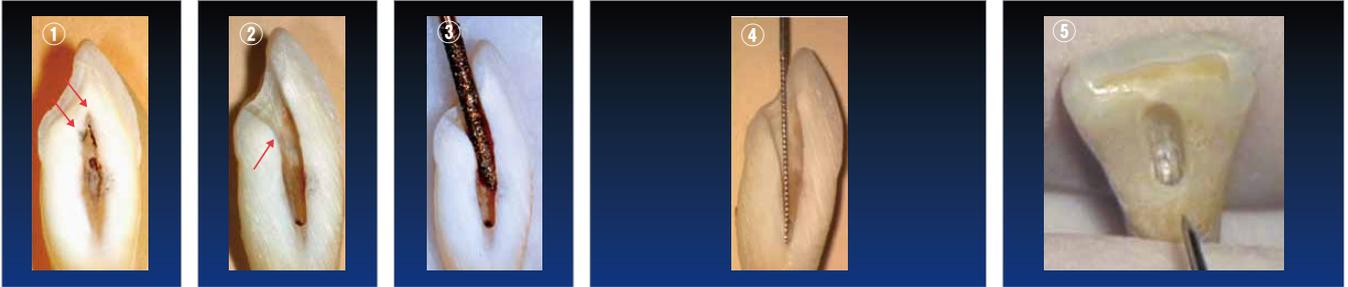


基本的な術式[前歯部]



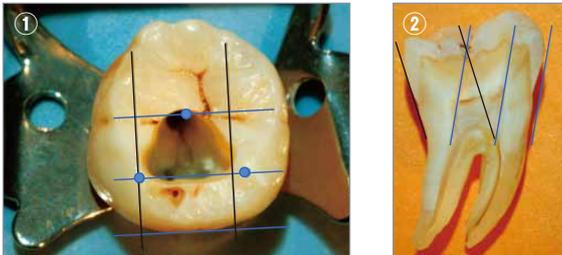
①AccessCavity前の前歯。 ②ラウンドバーで天蓋の穿孔。 ③LAアクセスバーを唇側壁へ向けて挿入。 ④Lingual Shoulder (LS) を切削する。 ⑤LAアクセスバーを根尖方向に向けて立て直す。

上顎前歯の理想的なAccess Cavity



①術前。基底結節より数ミリ歯冠側方向(矢印)。 ②アクセス部から根管までの位置の違いからLSが作られる(矢印)。 ③LAアクセスバーを用いると容易にLSを除去できる。 ④LS除去後の根管。#15程度のKファイルを根管に挿入してAccess Cavityの仕上がりを確認する。アクセス開口部に接触しないことでファイルが歯軸と平行になっていることが理想である。 ⑤アクセスフォーム(外形)は逆三角形よりは縦長の楕円形となる。

基本的な術式[臼歯部]



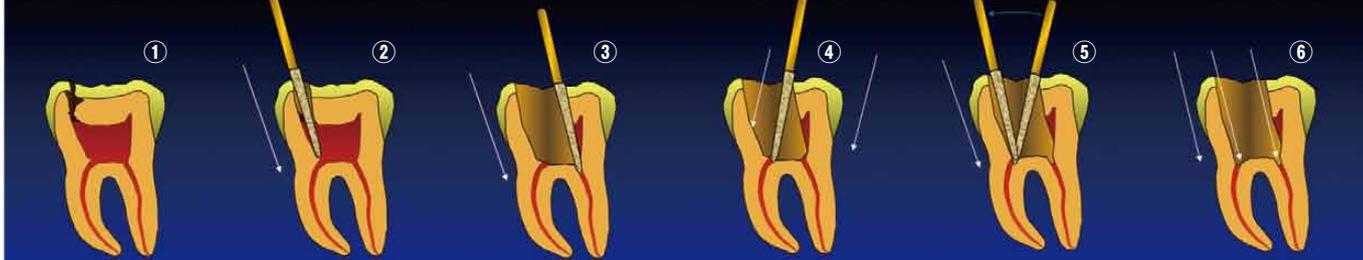
①アクセスフォームの頬舌の外形ラインは、機能咬頭頂より数ミリ短いラインと非機能咬頭頂のラインが目安である。近遠心的外形ラインは近心面に平行で頬側咬頭頂と舌側咬頭頂を結ぶラインと下顎は遠心小窩、上顎は対角隆線のラインである。 ②遠心根管と近心根管は近心面と平行に傾斜している。近心根管口は遠心面とほぼ平行になっている。

抜去歯のAccess Cavity例



①術前：近心偶角部にカリエスを認める。 ②ラウンドで天蓋を穿孔。 ③LAアクセスバーに交換する。 ④遠心根管の根管口を明示。 ⑤近心根管口のエンド三角を除去。 ⑥近心根管口を明示。 ⑦超音波チップで根管口までのラインを修正。 ⑧超音波チップで髓角部を修正する。

LAXバーを用いての大白歯イラスト例



①術前：C3カリエスを認める。 ②カリエス除去し天蓋穿孔後、LAアクセスバーに交換する。 ③LAアクセスバーを近心面と平行にして遠心根管の根管口を明示。 ④LAアクセスバーを遠心面と平行にして近心根管口を探る。 ⑤近心面と平行になるようにしてエンド三角を除去し、近心根管口を明示。 ⑥LAアクセスバーを用いてのAccess Cavity形成後。